

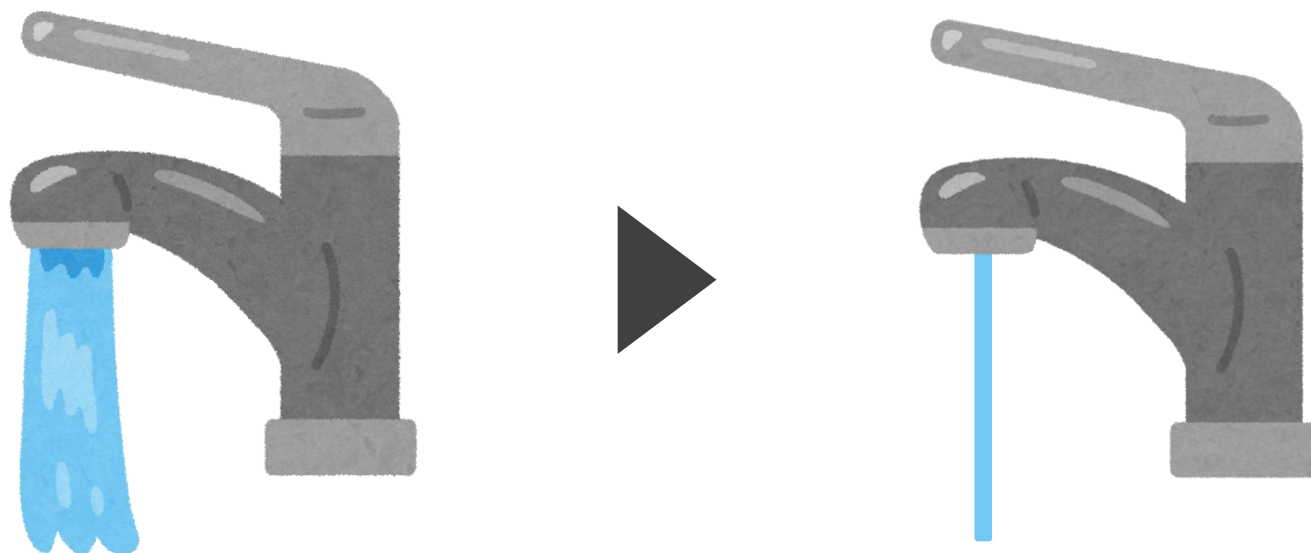
9月1日付で佐世保市渇水対策本部を設置しました。
(水道局渇水対策本部からの移行)

佐世保市南部地区において

減圧給水制限を実施します

(9/3～実施予定)

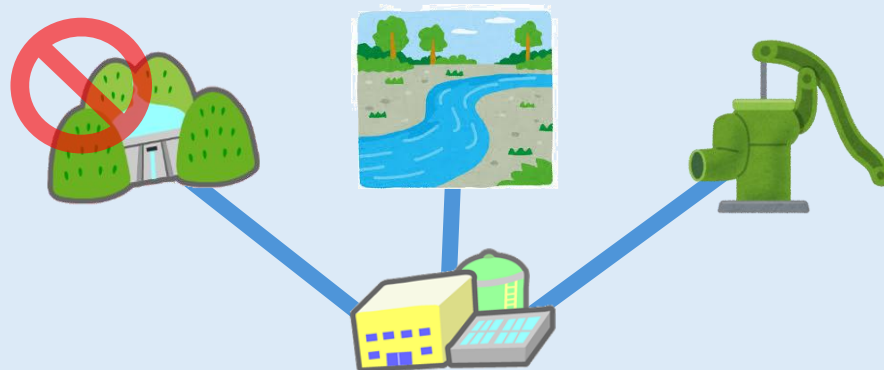
R8.9.2 佐世保市水道局



1)水道供給にかかる各種制限について

①取水制限

- ・ダムからの取水量を制限するものです。
- ・本市は水源(ダム)が乏しいことから、常に「ダム温存＝取水制限」の運用を行っています。
- ・この段階では、市民の水道使用に何ら制限は生じません。



②自主節水

- ・こまめに蛇口をしめるなど、自主的な節水対策を呼び掛けるものです。
- ・渇水状態にあることを周知し、通常以上の節水への協力をお願いします。



③減圧給水制限

- ・水道管の水圧を下げて、蛇口からの水の出方を鈍くする制限方法です。
- ・蛇口を開いても、普段より水が出る量が少なくなります。
- ・自主的な節水対策と合わせて効果が発揮されるものです。



減圧給水制限



時間給水制限

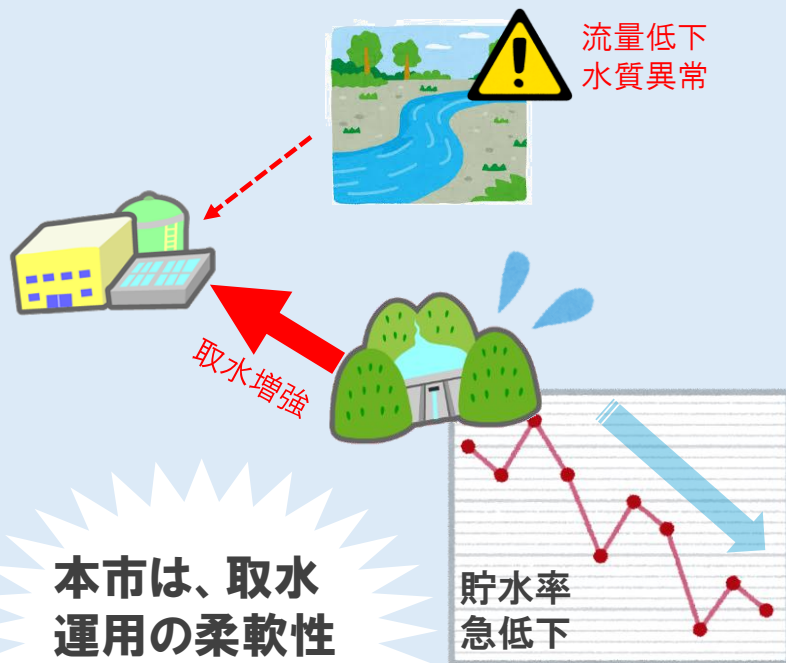
④時間給水制限

- ・給水する時間を制限する方法です。
- ・給水時間以外は、蛇口を開いても水は出ません。
- ・渇水の進行に応じて給水時間が制限され、H6年大渇水のピーク時には、43時間連続断水(二日間で5時間の給水)となりました。

2)佐世保市の水源事情 その1

①南部地区の場合

- ・主要な水源が、下の原ダムと川棚川の2つしかありません。
- ・川棚川からの取水に問題が生じると、下の原ダムの依存度が高まり、貯水が急速に低下します。
- ・万が一、下の原ダムが枯渇すると、他に代替可能な水源がないため、水道供給に著しい支障をきたすことになります。

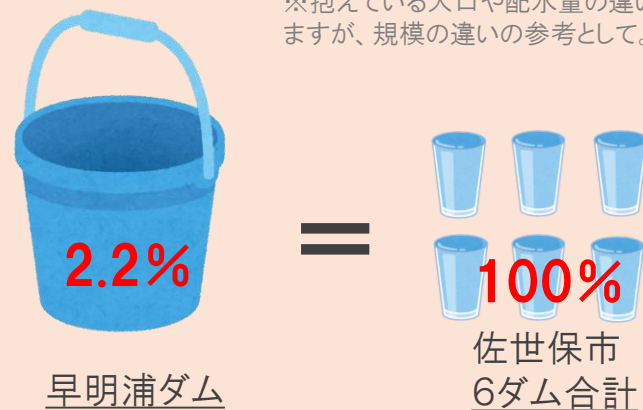


本市は、取水
運用の柔軟性
が低い。

②ダムの規模が小さい

- ・他都市と比べ、本市のダムは非常に規模が小さいため、「貯水率」だけでは、水源状況を正しく比較することはできません。
- ・例えば、喝水報道で目にすることが多い四国の早明浦ダムの有効貯水量は約2億9000万 m^3 です。これに対し、本市は、佐世保地区の6つのダムを全て合わせても約640万 m^3 しかありません。
(本市のダム100%は、早明浦ダムの2.2%)

※抱えている人口や配水量の違いはありますが、規模の違いの参考として。



水瓶が小さい本市は、**今の時期は100%近い貯水率を維持していなければなりません。**

3)佐世保市の水源事情 その2

①雨が少ない冬場を乗り切るために…

・例年、6月の梅雨時期から9月の秋雨までは雨が
多く、秋口から冬場は雨が少ない時期が続きます。

・通常は、9月頃まではダム貯水率100%近くを維持して、その後数ヶ月間の少雨を乗り切るのが、佐世保市の水運用です。

・8月の降水量の平年値は255.4mmですが、今年の降水量は10.5mm(平年の4.1%)と非常に少なく、8月末時点の下の原ダム貯水率は61.5%となっています。

《月間降水量》

※気象庁(佐世保地点) (mm)

6月 梅雨

7月

多雨季

8月

9月 秋雨・台風

10月

11月

12月

1月

2月

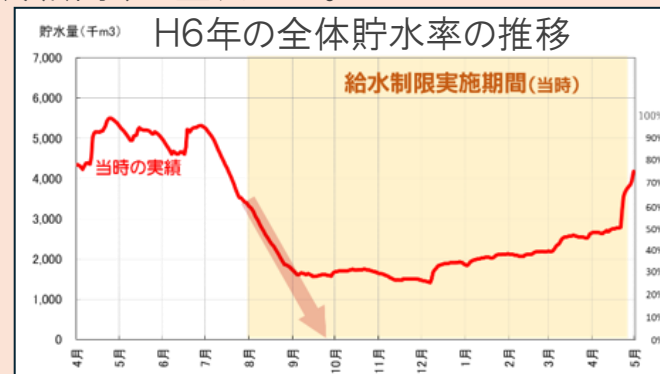
3月 菜種梅雨

少雨季

	平年値	R8実績
6月	328.9	591.0
7月	342.2	297.0
8月	255.4	10.5
9月	195.6	-
10月	98.6	-
11月	101.6	-
12月	77.5	-
1月	63.4	-
2月	81.1	-
3月	120.7	-

②水瓶が小さいため、1～2ヶ月の少雨で危機的な状況に…

・平成6年大渇水の時も、夏場の雨が少なく、6月末約96%からの1ヶ月で約44%にまで減少し、厳しい給水制限(断水)に至りました。



・秋口から冬場の少雨は頻繁に起こっています。
・令和4年度は、10月は下の原ダム貯水率100%であったのが、その後の2ヶ月で約55.7%まで低下したことにより、節水の呼びかけを行いました。

R4年度

南部水系【下の原ダム】

1月4日現在

→当時の記者発表資料



4)過去の事例 ～H17・H19年度の事例～

①30%維持がひとつの目安

・万が一、ダムの水が枯渇(0%)すると、消火栓からも水が出なくなり消火活動が困難になりますし、人工透析や外科手術等の医療活動にも著しい支障を来すおそれがあります。

・市民の生命や財産を危ぶむ事態となりかねないため、何とかしてダムの枯渇を避けなければなりません。



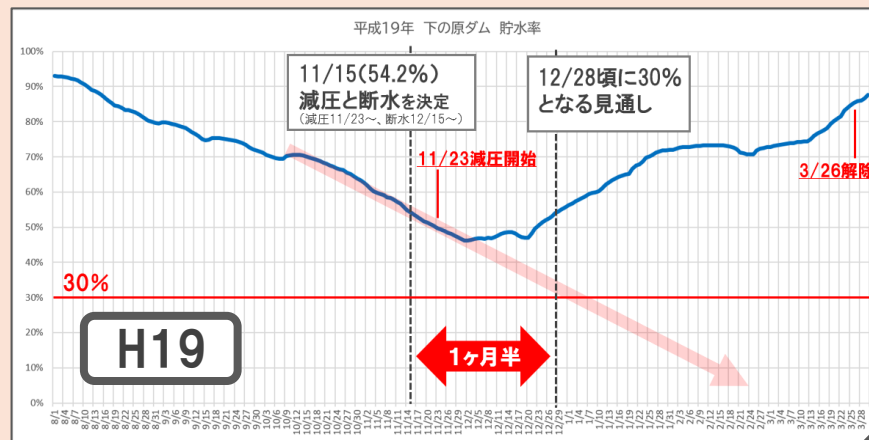
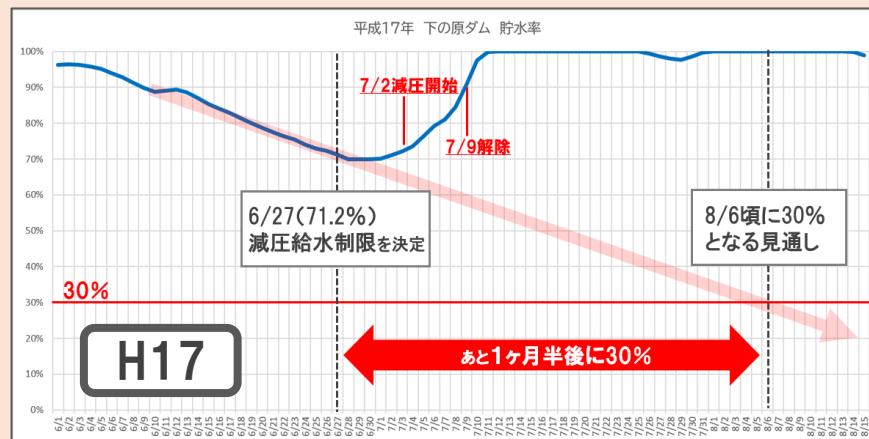
・本市のダム貯水率は、渇水時には一日あたり概ね△0.9%～△1.0%のペースで減少していますので、1ヶ月程度の少雨が続いても、最低限の水道供給を確保するためには、30%程度の貯水は維持しておく必要があります。

《判断の目安》

**気象情報に照らし合わせて、
30%の維持が困難な見通しと
なったときに対策を強化。**

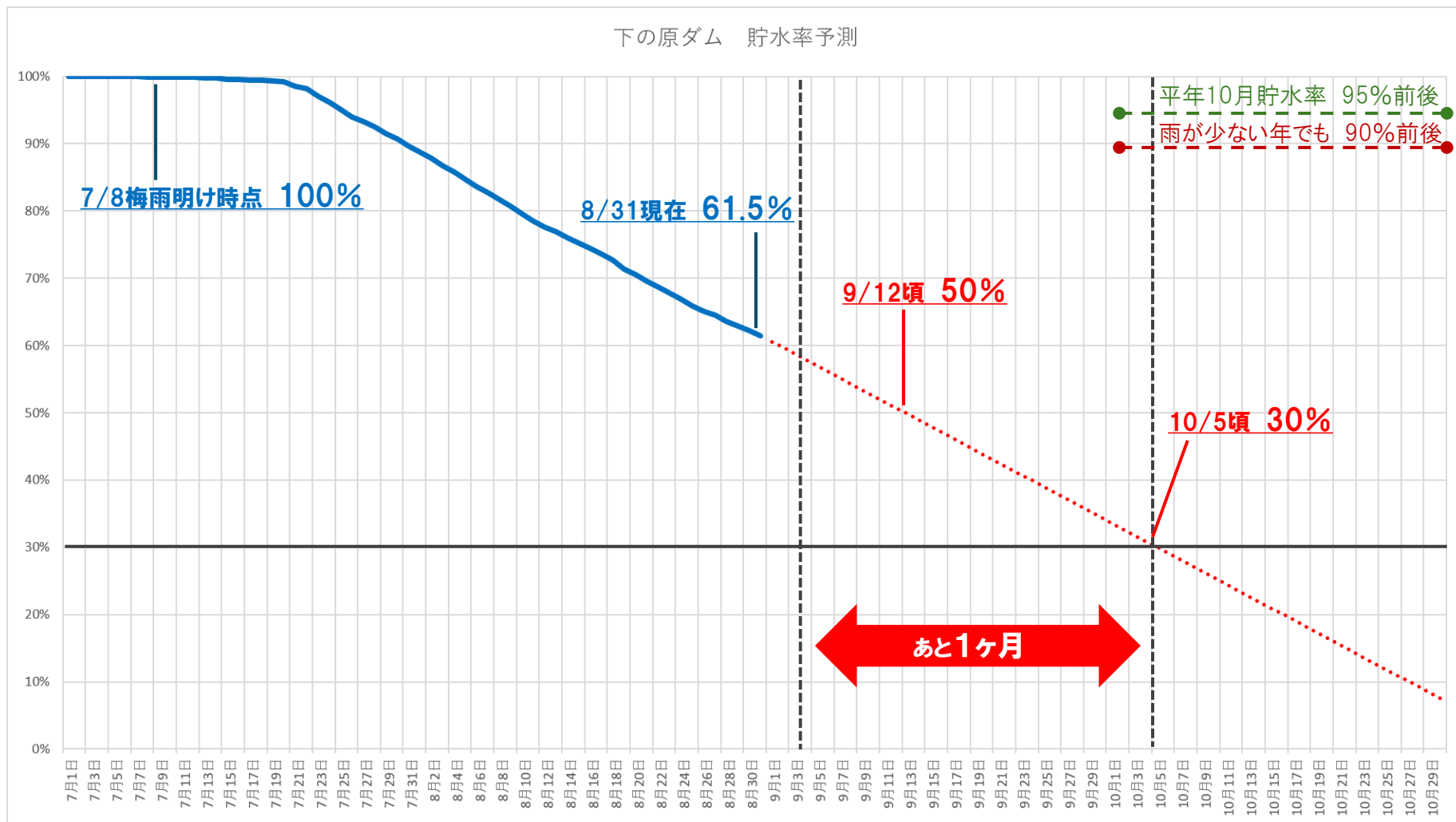
②過去の渇水では『1ヶ月半後に30%』のタイミングで実施

・減圧給水制限を行った直近の事例(H17、H19年度)では、いずれも1ヶ月半後に30%を下回る見通しとなったタイミングで、給水制限の実施を決定しています。



5)現在の下の原ダムの状況と見通し

- ・秋雨に期待していたところですが、今のペースが続くと**30%を下回るまで、あと1ヶ月**に迫っています。
- ・冬場の少雨季を乗り越えるためには、貯水率の低下を抑え、秋雨による貯水率の回復を図る必要があります。



下の原ダムは、例年、95%前後の貯水率で10月を迎えています(多少雨が少ない年でも90%前後)。11月以降は雨が少ない時期が続くため、10月までの貯水を用いて冬場を乗り越える必要があります。

6)気象情報

①雨の予報(9/2時点)

・日本気象協会の2週間予報では、雨の予報が出ていますが、他の機関の同日の予報も踏まえると、確実な降雨を期待できる状況ではありません。

日本気象協会

日付	9/2(水)	9/3(木)	9/4(金)	9/5(土)	9/6(日)	9/7(月)	9/8(火)	9/9(水)	9/10(木)	9/11(金)	9/12(土)	9/13(日)	9/14(月)	9/15(火)
天気														
降水確率	40%	50%	60%	60%	40%	40%	20%	20%	40%	40%	40%	40%	30%	80%
降水量	0mm	1mm	12mm	27mm	0mm	0mm	0mm	0mm	0mm	0mm	0mm			



気象庁

	9/4(金)	9/5(土)
天気	曇一時雨	曇一時雨
降水確率	50%	40%
信頼度	C	C

ウェザーニュース

	9/4(金)	9/5(土)
天気		
降水確率	60%	30%

Yahoo

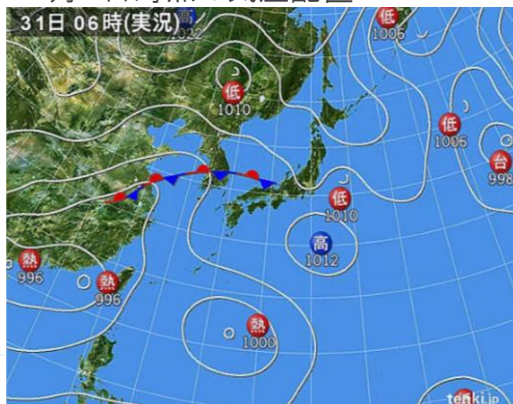
	9/4(金)	9/5(土)
天気		
降水確率	20%	20%

②気圧配置 (日本気象協会)

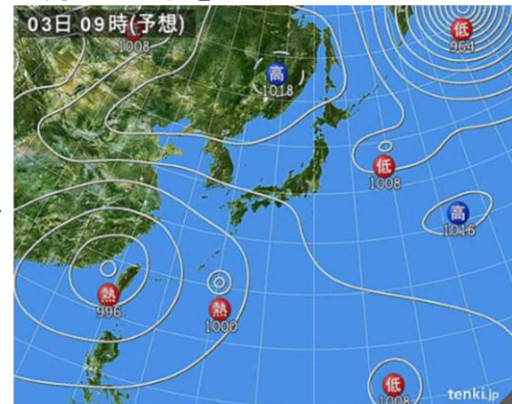
・西日本上空に張り出した太平洋高気圧が、東側に移動する予想が示されており、今後、熱帯低気圧が北上し、雨をもたらすことが期待されます。

今後の降雨に期待しつつ、それまでの間、可能な限りダムを温存する必要があります。

9月1日時点の気圧配置



9月3日の予想



7)減圧給水制限の範囲

・今回、減圧給水制限の対象となるのは、下の原ダム(広田浄水場)から給水する南部水系です。

・南部水系の境界ラインは右図のとおりです。

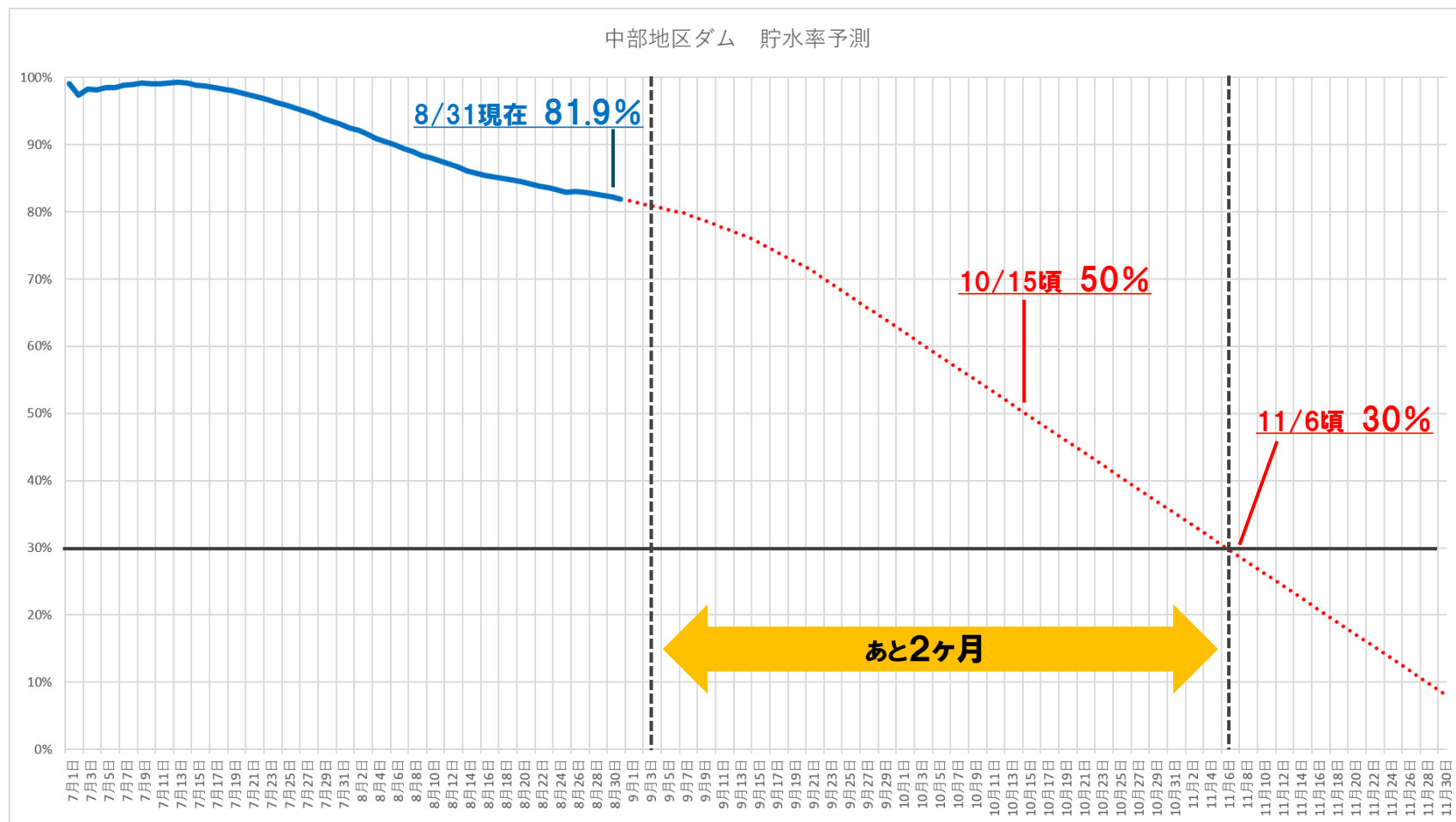


対象
範囲

- ・三川内支所、早岐支所、針尾支所、江上支所管内 の全町
- ・大塔町、卸本町、大岳台町、もみじが丘町、白岳町、沖新町、ひうみ町の全部
- ・稲荷町、大宮町、木風町、大黒町、天神2～3丁目、東浜町、東山町、藤原町、黒髪町、大和町、日宇町、南風崎町、瀬道町 の一部

8)中部地区の状況

中部水系5ダムの平均貯水率 (Lv4.自主節水)



・例年(100%に近い状態)と比べ貯水率が低く、予断を許さない状態ですが、南部地区ほど差し迫った状況ではなく、秋雨の状況を見て判断していくことになります。

・もしも、今後も少雨が続くと、河川からの取水が低下し、ダムの負担が高まる(貯水率低下が加速する)ことが懸念されます。今のままでは冬場を乗り越えることが困難な状況ですので、引き続き節水にご協力ください。

9) ご不便をおかけいたしますが より一層の**節水**にご協力をお願いします

もしも、雨が降らない状況が続けば、今のペースだと9月末には下の原ダムの貯水率が30%程度となります。時間給水制限(断水)という事態を避けるために、お一人お一人の節水により、ダム温存にご協力ください。

お風呂は半身浴で



浴槽いっぱい貯めるより

150ℓ
の節水

食器の貯め洗い



流しっぱなしよりも

80ℓ
の節水

洗濯は残り湯の利用を



1回の利用で

60～80ℓ
の節水

洗車はバケツで



ホース洗いよりも

200ℓ
の節水

10) 渇水状況や給水制限に関するお問い合わせは・・・

渇水対策本部・お問い合わせ窓口へ

TEL 0956-24-1151

**内線番号 3580
3581
3582**

○平日8:30～20:00(土日祝日は対応いたしません)

※通常の宿日直による電話対応は継続して行います。